

# グループ一体で重大労災防止の体制構築を！

## 第2回 拡大安全対策委員会

中央本部は、1月25日に北梅田研修センターにおいて、JR西日本連合の鉄道関係の7単組（NESCO労組、JR西日本テクノス労組、JR西日本メンテツ



安全の方針について提起する  
荻山委員長



出席者からの提起に  
耳を傾ける執行部

ク労組、広成建設労組、大鉄工業労組、西日本電気テック労組、JR西日本テックシア労組）も出席のうえ、第2回拡大安全対策委員会を開催した。

安全対策委員会の事務局長を務める福本業務部長より、前回委員会以降の経過報告がなされた。特に、新幹線重大インシデントの発生とその対応について、これまでの経過と今後の課題が共有された。

また、注意事象・労働災害の発生状況が報告され、輸送障害が増加しているもの、注意事象が減少していること、熱中症も昨年と比べて減少していることが報告された。一方で、重大事故や重大労災に直結しかねない危険な注意事象が続いていることについて、引

## 台湾鉄路工会訪問団(その2)

# 様々な知見を得た台湾国鉄視察に感謝

(2017年11月2日~7日)

三日目は、高雄に移動し、11月1日に正式開業したばかりのLRTに乗車した。日本でも珍しいバッテリー電車で、停車中にパンタグラフから充電し、蓄電



池の力のみで走行する車両であった。正式な料金は30元だが、ICカードを持っていけば10元に割り引くキャンペーンが行われていた。正式開業して初めての週末ということもあり、地元の方を含め、多くの人が乗車していた。

その後は高雄車両基地に移動し、基地の説明を受け、見学を行った。高雄車両基地は、元々高雄の近郊にあったが、リニューアルを行い、基地を拡大するため、郊外に新たに作られたとのこと。そのため設備は新しく、約550名もの労働

者が働いていた。ほとんどは高雄近郊に住んでおり、通勤の便宜を図るため、基地内に専用の駅を作り、専用の通勤列車を走らせていた。

構内には信号扱い所もあった。構内と営業線を結ぶ渡り線は複雑化されており、万が一、片方の線路が使えないときには、もう片方の線路を単線扱いにできることだった。

車両基地では、全般・要部・交番・仕業の各検査ができ、車輪の研削機もあるとのことだった。

見学の後は、台湾鉄路工

き続き警戒が必要であると認識が共有された。

議題では、新幹線重大インシデントへの今後の対応、安全確立に向けた取り組みが取り上げられ、本年も4月25日に「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」を開催すること、さらに昨年10月に開催する予定

であった「JR連合第10回安全シンポジウム」を、5月10日にグランヴィア広島において開催することが確認された。

その後、グループ労組・地本・総支部・部会からの報告や問題提起がなされ、特に、グループ労組からの現場の実態や課題認識に対

## 各系統特有の課題を議論

### 第1回部会長連絡会議

中央本部は、1月18日(木) 中央本部会議室において、第1回部会長連絡会議を開催した。新幹線の重大インシデントや相次ぐ危険な事象を受け、各業職種別部会との連携を密にすることを目的に開催された。各部会からは、定期委員

会の開催状況や新体制の報告、各系統に特徴的な問題や課題などについて提起がなされた。

中央本部は、今後も業職種別部会を活用し、各系統特有の課題について、連携して解決に取り組んでいく。

会高雄機務分会の黄理事長、高雄機務分会の陳団長、中央本部の頼常務理事など、多くの地元組合員とともに食事を共にし、懇親を深めた。

四日目は、高雄から花蓮まで特急列車・自強号で移動した。非電化区間があり、気動車であった。

前日懇親を深めた頼常務理事が乗務する列車とのことで、特別に運転台にも乗

車することができた。信号の形式や喚呼の方法は若干異なるものの、線路の幅や保安システム(台湾ではATPと呼ぶ)など、共通するものも多く、非常に興味深かった。途中では、複線化や電化の工事がなされており、台湾国鉄の発展力を感じた。

花蓮到着後は、日本統治時代の面影が残る、吉安慶修院と、花蓮鉄道文化園区を見学した。鉄道文化園区には、日本人が敷設した鉄道の歴史が展示してあった。タブレットを用いた閉塞方式の解説など、まるで日本の鉄道資料館に来たかのようであり、改めて、日本と台湾のつながりを強く感じた。

夜は、花蓮分会の江理事長、花蓮運務段の呉段長、花蓮工務段の姜段長、花蓮

して、各地本・総支部・部会の出席者は耳を傾けていた。

会議全体を通して、引き続き、各現場やグループ会社、協力会社への教育の徹底を図り、すべてのJR関係労働者の、触車事故防止の体制構築に取り組みしていくことを確認し合った。



営業、運転、工務、関連事業、医療、接客部門の各部会長が一堂に会し議論した

# ロマンは実を結ぶ

No.217

## 中国ジェイアールバス地方本部

### 祝2年連続広島カープ優勝

### 今年もパレード輸送に参画しました！

年も広島市中心部の平和大通りを舞台に開催されました。今回はCS(クライマックスシリーズ)で敗れたため、日本シリーズへの出場が叶わず、盛り上がり心配されましたが、広島街は約30万人のファンで賑



昨年より1台増のラッピングカー



沿道ファン約30万人の賑わいを見せた優勝パレード

わいました。

中国ジェイアールバスは、二階建てオープンバスの2階デッキ部分に選手を乗せ、約3キロを45分かけて移動する、パレード輸送を行いました。バスは自社バス2台と日の丸自動車興業(東京)からリースした4台をパレード専用ラッピングし、昨年より1台増やした計6台となるドライバーを、全員JR西労組組合員が担当しました。

当日は前田社長も1号車に同乗した他、中バス地本の田部書記長も、球場から現地までの選手輸送に携わるなど、労使をあげて優勝パレードへ積極的に参加しました。

他球団ファンの方ごめんなさい。

〈中国ジェイアールバス地本 発〉

機務段の頼段長、台東駅の楊駅長など多くの現地の組合員に囲まれ、手厚い歓迎を受け、懇親を深めた。

五日目は、初日からガイドを動めてくださった呉さんの職場である、花蓮機務段を訪問した。機務段とは、日本で言う乗務員区と車両検修区が一体となった職場である。なお、台湾では、運転士になるのは車両検修を経験した者であり、構

車掌から運転士になることではないとのことであった。乗務員の点呼場には、日本と同様にアルコール検知器での飲酒チェックや勤務確認表、各種の掲示板などがあり、出勤した運転士は徐行箇所をはじめ様々な注意事項を確認していた。

車両検修区では、気動車を中心に様々な車両が留置してあった。部品の交換などを行うとのことだが、構



内は綺麗に整理整頓されており、日本で言う5S(台湾では、安全safetyを加えた6S)が徹底されていた。

その後は再び自強号で花蓮駅から七堵駅に移動し、日本でも有名な観光地となった九份などを見学した。

五日間の行程で台湾を一週し、台北に戻ってきた一行は、再び天成大飯店(ホテル)において、張理事長をはじめとする皆さんから、盛大な送別会を開催し

ていた。

挨拶の中で、張理事長は再び、民営化に備えた勉強会の開催を強く要望した。河村団長は、今回の視察の成果に感謝するとともに、できる限りの協力を行うと述べた。

今回の台湾視察団を通して、様々な知見を得ることができた。このような機会を与えて頂いたことに感謝して、報告に代える。(終

